



ほっとけない世界のまずしさ



ほっとけない 世界のまずしさ
プレスリリース

2006年12月1日

あたらしい「アドボカシー」の形！ U2が貧困をなくすためのサイバーアクション

アイルランドのロックグループU2のメンバーであり、貧困削減、HIV/AIDS、アフリカ支援などの活動を展開するBONO（ボノ）氏が、コンサートツアーのために来日。会場となったさいたまアリーナでは「世界の貧困をなくそう！」と会場のファン約2万人に呼びかけた。

BONOはアフリカの貧困やエイズなどの社会活動に精力的に取り組むアーティスト。今回は8年ぶりの来日コンサートとなり、U2と日本のNGO「ほっとけない世界のまずしさ」が貧困のない世界の実現をめざしたアクションを展開した。

「ほっとけない世界のまずしさ」は世界100か国以上で行われている「貧困をなくすためのグローバル・コール（GCAP: Global Call to Action against Poverty）」と連携して、「貧困を生み出すしくみ」を変えていくために「行動する文化」をつくりだそうとキャンペーンを展開している。これは、「途上国の人々が自力で立ち上がり、先進国の人々も一緒に貧困を生み出す社会のしくみをお金ではなく、声をあつめて変えていこう」というキャンペーンである。

コンサートで、BONOは貧困をなくすためのキャンペーンのシンボルである白いリボンをつけ、コンサートに集まったファンにも彼の来日を記念して作られた特製ホワイトリボンが配布された。また、コンサート終盤には会場のファンに携帯電話を取り出し、空メールを送るよう指示。メールを送信したファンには、BONOから「極度でしかけた貧困を過去のものにするための資金、薬、科学をすべて私たちは持っているはずだ。問題は、貧困を解決したいと意志があるかどうか、それだけだ。」というメッセージが配信された。

今回の携帯電話を使ったコンサート中のサイバーアクションはサンマイクロシステムズ社と株式会社サイバードの協力により可能となり、「ほっとけない世界のまずしさ」の貧困をなくすためのキャンペーン携帯サイト (<http://www.hottokenai.jp/i/>) にサインアップされるシステムとなっている。サインアップの際にはU2来日公演の様子を撮影した携帯待ち受け画像、もしくはU2来日公演での演奏曲の着メロ1曲プレゼントの特典がある。

DATA (NGO) のディレクターである Oliver Buston 氏は「このサイバーアクションがきっかけとなって、貧困のない世界が現実のものになるよう、さらに広い市民の「声」と「参加」を求める新しいアドボカシーの形が日本から発信されることを期待している」とコメントした。

「ほっとけない世界のまずしさ」は、日本が主要国首脳会議（G8サミット）の議長国となる2008年の機会をとらえ、貧困のない世界を現実のものとするために、そして日本がそのリーダーシップをとれるようキャンペーンを展開している。

（参考情報）

1. 「ほっとけない世界のまずしさ」 <http://www.hottokenai.jp/>
2. BONO（ボノ）：ロックグループU2のボーカリスト。1985年にボブ・ゲルドフらの呼びかけで始まった「ライブエイド」をきっかけに、貧困をなくすための活動に目覚め、世界中で精力的な活動を展開している。また、貧困削減のシンボルである「ホワイトバンド」に賛同するとあわせて、世界的なブランド企業を巻き込んだ「世界エイズ・結核・マラリア対策基金（世界基金）」への新しい寄付の仕組み「プロダクト・レッド」を2006年に考案した。
3. DATA (Debt, AIDS, Trade, Africa) : 2002年にBONOがボビー・シュライバー氏と創立したNGO。アフリカの貧困の原因である債務、エイズ、不公正な貿易ルールに対する意識喚起と効果的な対応を求めて活動を展開している。 <http://www.data.org/>

このプレスリリースに関するお問い合わせ先:

「ほっとけない世界のまずしさ」 広報・コミュニケーション担当: 松鶴(まつう)

Tel: 03-5484-5977

携帯: 080-6555-6503

Fax: 03-5440-9114

e-mail: takara@hottokenai.jp